

角館高校の教育実践報告

角館高校の馬術部は、今年6月に仙北市で開催された東北大会を準優勝で勝ち抜いて、10年ぶりに全国大会に出場しました。そこで、キャプテンの草薙真友子さん(3年)に、全国大会に出場した感想を寄せてもらいました。



6月の東北大会で。
前列左から、榎校長、草薙、新山、高橋卓、高橋周の各選手。
後列左から、山崎テクニカルアドバイザー、阿部監督

7月20、21日に山梨県北杜市で行われた第41回全日本高等学校馬術競技大会に、私たち角館高校馬術部は参加してきました。

試合は貸与馬による障害飛越を3校ずつで争うトーナメント式で、くじ引きの結果、私たちは奈良県山辺高校、京都府洛水高校と当たりました。相手の高校の選手をみると、名前を聞いたことがある有名な少年選手もありました。結果は健闘しましたが、接戦の末、敗退。全国の壁は高いものでした。

しかし、ずっと目標にしていた全国という大舞台で競技できたことは、私たちにとって夢のようでした。全国へと導いてくださった先生、後輩、父母、地域の方々、そして今まで応援してくださった全ての人たちに感謝の気持ちで一杯です。

今後も、角館高校の馬術部への応援をよろしくお願ひします。

われら角高

テージセー

全国高等学校定時制通信制の各競技大会が8月の東京を舞台に繰り広げられました。その中で全国入賞を果たした陸上競技部の活動を報告します。



記録的な猛暑の中、競技が終了しホッと安堵の表情を浮かべる選手たち。左から田口(2年)、高橋(3年)＝国立競技場

お盆の東京は連日の猛暑でありました。角館の暑さに慣れていた選手たちも、東京国立競技場の暑さには驚きを隠さず「なしてこんたにあちい？」と方言丸出し。私も負けじと「んだたてしかだねべ！」と方言丸出しするのみ。定時制の生徒は、仕事のあとに毎日練習を重ねてきた意地のある選手たちです。男子も女子も根性のある生徒たちです。そんな生徒たちを完全に信じ込んでいた私も、根性はあるほうです。本番では頑張っしてほしい、勝ってほしい、出来ることなら優勝してほしいと真剣に思いました。

大会当日の東京は快晴でした。本当に雲ひとつ無い青空でした。折しも日本列島の最高気温をマークした時節、私たち陸上競技部は自己新記録をマークしたいと願っておりまして。そして選手たちはよく走りました。予選落ちしたり入賞したりとそれぞれに結果は違ったけれど、選手たちは東京で「自分の中の見えない敵」に勝つことが出来たようです。

たくさんのご声援を頂いた地元の皆様に感謝します。ありがとうございました。

(陸上競技部顧問・森川真琴)

全国大会の成績

陸上競技(於 国立競技場)	男子	800メートル	2' 17" 56 (予選)	郷橋将平(3年)
	女子	100メートル	14" 7 (準決勝)	田口志保(2年)
		800メートル	2' 37" 76 (第8位)	田口志保(2年)
男子卓球(於 駒沢体育館)	個人	2回戦	高橋誉延(3年)	
	団体	2回戦	高橋誉延(3年)、小松遼(3年)	
				男鹿彰一(1年)、佐々木健登(1年)
男子柔道(於 講道館)	団体戦	秋田県	1勝1敗	長澤拓也(3年)

応援
ありがとうございます
ございました